

# 萩市におけるコミュニティ・スクール構想

～「やまぐち型地域連携教育推進事業」の取組を通じて～

池田 廣司・静屋 智

A Plan for Opening Community Schools in Hagi:  
Linking schools with a local community

IKEDA Hiroshi, SHIZUYA Satoru

(Received January 6, 2016)

キーワード：コミュニティ・スクールと地域協育ネットの一体的な推進、小中合同による  
学校運営協議会、小中共通テーマ、小中連携カリキュラム

## はじめに

平成16年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、学校運営協議会制度が導入されてから10年余が経過した。こうした中、全国でコミュニティ・スクールが広がりを見せ、地域住民や保護者等が学校運営に参画する取組が進展してきた。平成27年4月1日現在、全国の2,389校がコミュニティ・スクールに指定されている。この間、国では、平成25年6月の第2期教育振興基本計画（閣議決定）の中で、「絆（きずな）づくりと活力あるコミュニティの形成～社会が人を育み、人が社会をつくる好循環～」として、社会全体で学校や子どもたちの活動を支援する取組と地域とともにある学校づくりを推進することが打ち出された。そして、平成24～28年度の5年間で全国の公立小・中学校の1割（約3,000校）をコミュニティ・スクールにするという数値目標が打ち立てられた。また、最近の動きの中で、平成27年3月には、教育再生実行会議第6次提言において、「コミュニティ・スクール未導入地域における取組の拡充や、学校支援地域本部等との一体的な推進」「コミュニティ・スクールの仕組みの必置についての検討推進」などが盛り込まれ、同年4月に、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について」中央教育審議会に諮問されたことは周知のとおりである。

こうした状況の中、山口県では、平成27年3月に「元気創出やまぐち！ 未来開拓チャレンジプラン」を策定し、平成29年度までに山口県の目指すべき姿を明らかにした。この総合計画の中で、「第4章 III 人材活力創造戦略」の「10 次代を拓く教育充実プロジェクト」の重点施策36では、社会総がかりによる「地域教育力日本一」の取組の推進を掲げている。そして、具体的な施策の方向として、①「コミュニティ・スクール」で子どもも大人もイキイキとする地域にやさしい学校づくり、②「地域協育ネット」による日本一の「学校、家庭、地域の温かい絆づくり」の推進を掲げている。

こうした国や県の動きの中で、山口県の各市町では、コミュニティ・スクールの設置率が全国の設置率を大幅に上回る速度で進展し、平成27年10月1日現在で93.1%となっている。平成28年度末には100%となる予定である。図1は、山口県教育委員会が推進するコミュニティ・スクールと「地域協育ネット」の一体的な推進を図るための「やまぐち型地域連携教育の推進イメージ」で

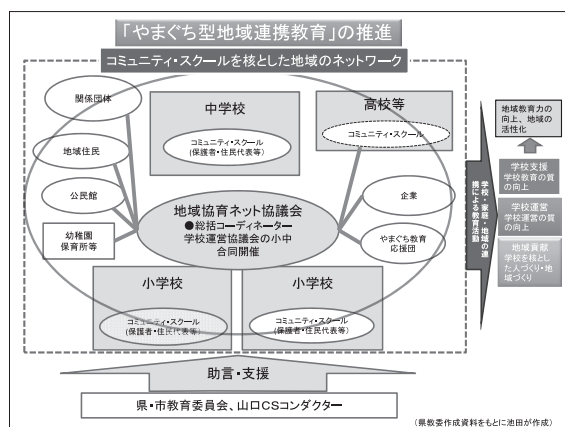


図1 やまぐち型地域連携教育の推進イメージ

図1は、山口県教育委員会が推進するコミュニティ・スクールと「地域協育ネット」の一体的な推進を図るための「やまぐち型地域連携教育の推進イメージ」で

ある。「地域協育ネット」とは、学校関係者や保護者、地域住民が各中学校区で地域のネットワークを形成し、社会総がかりで子どもたちの学びや育ちを支援していこうとする仕組みである。この仕組みの中で、中学校区ごとに地域協育ネット協議会を設置して、育てたい子ども像を掲げて、小中が共通実践項目を作成し、小中連携をはじめ地域ぐるみによる教育活動の充実をこれまで以上に図っていこうとするものである。

そこで、本事業を学校や地域に密着して推進していくために、平成27年度、県内の13市に「山口CSコンダクター」が配置された。このコンダクターには、校長を退職し、学校経営や地域連携教育等の推進に関して経験豊富な人材が当てられた。筆者は、山口県教育委員会から山口CSコンダクターを委嘱されている。

本稿では、やまぐち型地域連携教育推進事業における初年次の萩市教育委員会と山口CSコンダクター（萩市）の連携した取組を中心にまとめることとした。

## 1. 「やまぐち型地域連携教育推進事業」における萩市の取組について

### 1-1 萩市のコミュニティ・スクール設置への経緯

萩市のコミュニティ・スクールの設置のスタートは、山口県初、全国でも5番目のコミュニティ・スクールとなった田万川中学校である。図2は、萩市の全小中学校のコミュニティ・スクール設置への経緯をまとめたものである。この中で、田万川中学校は、平成17年1月に、旧阿武郡田万川町立田万川中学校時代（平成17年3月の市町村合併後は「萩市立田万川中学校」）に、教科型の教室や、地域住民が自由に利用できる図書館やコミュニティ・ルームを有するなど、学校に地域住民が集い、「子どもも大人もともに学ぶことのできる地域の学校」というコンセプトで建設された。従って、敷地内にはバス停も設置され、地域住民が日常的に学校に集い易くなっている。続いて、椿西小学校が、平成18年4月1日に地域開放型の校舎建築と合わせて、山口県の小学校では初のコミュニティ・スクールとなった。

平成17年1月	田万川中（全国で5番目、山口県では初） 旧田万川町から指定され、コミュニティ・スクールとしてスタート	1
平成18年度	椿西小（山口県内小学校で1番目）	2
平成24年度	須佐中	3
平成25年度	椿東小、川上小、佐々並小	6
平成26年度	三見小、大井小、相島小、見島小、小川小、むつみ小 弥富小、明木小、三見中、大井中、相島中、見島中 萩東中、川上中、むつみ中	21
平成27年度	明倫小、越ヶ浜小、白水小、木間小、大島小、多磨小 育英小、越ヶ浜中、木間中、大島中、萩西中 <small>（椿東小……文科省「首長部局との協働による新たな学校モデル構築事業」）</small>	32
平成28年度	旭中（明木中が校名変更） 福栄小（紫福小と福川小が統廃合）、福栄中	35

図2 萩市のコミュニティ・スクール設置への経緯

このように、山口県のコミュニティ・スクールの設置への動きは全国でも先導的であり、なかでも萩市はその先駆けであった。その後、萩市では、コミュニティ・スクールはハード面とセットで設置するという認識が強かったことや、新校舎建築計画もなかったことから普及は思うように進まなかった。

山口県のコミュニティ・スクールの推進が進展する中、萩市教育委員会では、平成23年度に「地域開放型の校舎ではない学校においても、学校課題を解決するためにコミュニティ・スクールを導入する必要がある」という方針のもと、平成23・24年度に須佐中学校を文部科学省の「コミュニティ・スクール導入等促進事業」を導入して研究を進めた。この時すでに、須佐中学校は、平成21年度から3か年、「学校支援地域本部事業」を行っており、学校支援ボランティアによる教育活動の推進に成果をあげていたからである。須佐中学校のコミュニティ・スクール導入にかかる研究は、その後の椿東小学校や萩東中学校のコミュニティ・スクール導入のきっかけとなったと言える。

こうしたコミュニティ・スクール設置への気運が高まる中で、萩市においては、少子化による学校の統廃合など、地域によってその実情が異なることから、一斉に行政主導で指定するのではなく、「学校・地域で準備が整った段階でコミュニティ・スクールに指定する」という方針を掲げ、学校の主体性を尊重した設置方針を示した。こうした方針の中で、平成26年度から学校主体によるコミュニティ・スクールの設置が加速的になり、本事業を導入したこともあって、平成28年4月には100%の設置となる予定である。

## 1-2 萩市におけるコミュニティ・スクール推進体制

図3は、やまぐち型地域連携教育事業における萩市のコミュニティ・スクール推進体制である。平成27年度、本事業を実施するにあたり、萩市では、コミュニティ・スクールと地域協育ネットの一体的な推進を図ることが大切なねらいであることから、4つの中学校区12校をモデル校として指定した。

図3の左側の二つの校区は、旧萩市内の比較的規模の大きい独立した萩東中学校区及び萩西中学校区で、小中がそれぞれ独立しているが、小中連携を強化していこうとするものである。この二つの校区では、すべての小中学校で学校運営協議会が設置されている。

また、図3の右側の二つの校区は、平成17年3月の市町村合併前は、旧旭村、旧福栄村という中山間地に立地する小規模の学校である。

まず、旭地域においては、明木小の改築工事で合わせて、平成28年4月から、明木小学校と明木中学校が一つの校舎の中に併設される計画である。なお、明木中はこの時点で校名を「旭中学校」としてスタートすることとなっている。この校舎建設に合わせて、萩市立明木図書館が隣接して建設されることとなっている。学校運営協議会の設置については、明木小学校と佐々並小学校はすでに設置されているが、明木中学校については平成28年4月に校名変更と同時に設置する予定である。

次に、福栄地域においては、平成27年度末をもって、紫福小学校と福川小学校が統合され、現在の福栄中学校に隣接して「福栄小学校」として開校することとなっている。現時点では、この地域の小・中学校ともに、学校運営協議会は未設置であり、福栄中学校については平成27年度末までに設置する計画である。そして、平成28年4月に「福栄小学校」が開校した時点で学校運営協議会を設置する予定である。

このように、両地域ともに、少子化や耐震化工事に伴う学校の統廃合や校舎改築工事が進められており、そのような状況の中で、旭地域においては、「小中併設（1校分離）・一貫型」、福栄地域においては、「小中併設・一貫型」のモデル校として、コミュニティ・スクールとしての立ち上げや、小中一貫型の教育をめざして研究を推進することとした。

## 1-3 山口CSコンダクター（萩市）の役割と支援内容

図4は、萩市教育委員会とCSコンダクターが連携して行うモデル校への具体的な支援内容である。4つのモデル中学校区や、それぞれの学校の状況がすべて異なることから、学校ごとに開催される学校運営協議会や学校運営協議会立ち上げのための準備会に出席して学校や地域の状況に沿って助言することとした。「小中独立・連携型モデル校」の萩東中学校区においては、コミュニティ・スクールの推進が進んでいることから、萩東中学校区への取組をモデルとして、萩西中学校区に広げることと、「小中合同の学校運営協議会」の開催や、「中学校区における共通のテーマの作成」と「小中共通の視点に立った学校評価項目」を作成し、9か年の子どもの育ちや学びを系統的にとらえた「小中連携カリ

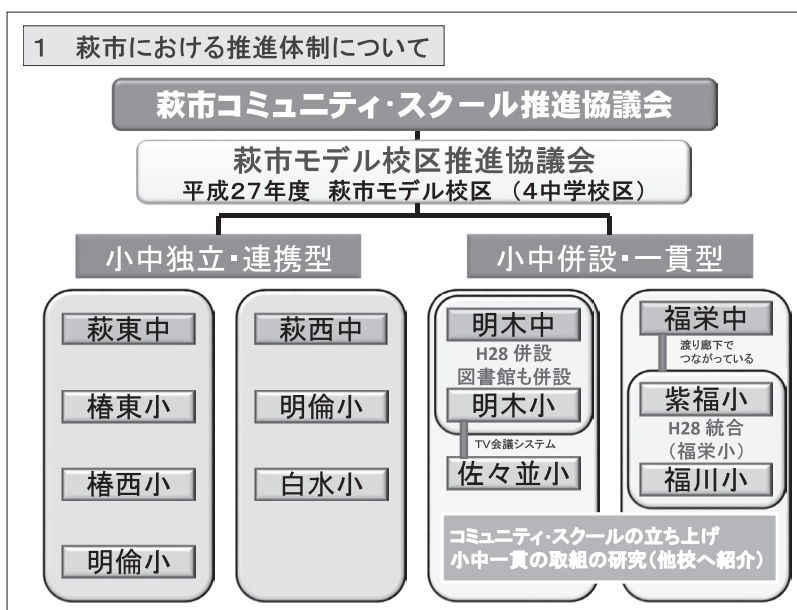


図3 萩市のコミュニティ・スクール推進体制

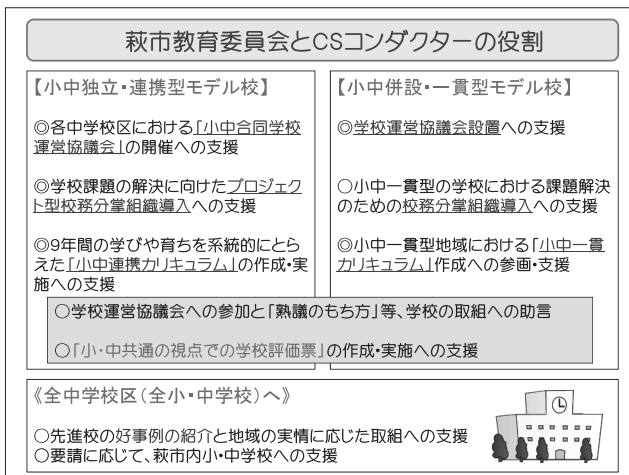


図4 萩市教育委員会とCSコンダクターの役割



キュラム」の作成支援を行うこととした。また、「小中併設・一貫型モデル校」においては、主に、学校運営協議会設置のための支援を中心に行ってきた。こうした、支援計画のもとに各学校を訪問して得られた「好事例」を図5に掲載している「Hagi CS 通信」として紹介し、モデル校だけでなく、萩市の全小中学校へ配信することとした。

なお、この通信は萩市の全職員が各自のパソコンで見ることができるよう工夫されている。

子ども大人もイキイキと！ 「いい学校」は、「いい地域」にできる。

2015.07.07

## Hagi CS 通信

10号

萩市CSコンタクト 池田廣司  
(萩市教育委員会 学校教育課内)  
TEL 0838-26-3558  
E-mail: cshagi@city.hagi.lg.jp

**学校と地域が連携して子どもの学びや育ちを支援**

**「小中共通の視点に立った学校評価項目」を検討**

3日(金)、萩東中学校区の小中合の同学校運営協議会が開催されました。この日は「やまぐち地域連携教育推進事業」の趣旨である、中学校区の子どもの学びや育ちを地域ぐるみで見守っていくこととする取組の一環として実施されたもの。6月上旬に決定した小中共通のテーマである「地域ぐるみのキャリア教育の推進 ～広げよう あこがれ育てよう 夢 高めよう 志(こころざし)」のもと、小中の共通取組事項を協議、確認するとともに、それを1学期末の学校評価アンケートで確認するために「小中共通の視点に立った学校評価項目」(6項目)を検討。

「小中共通の視点に立った学校評価項目」

- 将来の夢や志をもっていますか。(中) あなたは夢の実現に向けて努力していますか。(小)
- あなたは、(家庭や地域で)時と場に応じた言葉づかいをしていますか。
- あなたは、家庭や地域であいさつができていますか。
- あなたは、予習・復習など家庭学習の習慣が身に付いていますか。(勉や習い事を含む)
- 授業中正しい姿勢をしていますか。
- 鉛筆を正しく持っていますか。(小)
- 自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく伝えることができますか。

小中合同の学校運営協議会で、9か年の子どもの学びや育ちを共有することで、小中の連携がより一層進展することを期待しています。

**学校と地域を結び「ひと」**

学校・家庭・地域のよりよい響き合いを・・・  
「縁」を大切にし「絆」に

昨年度、コミュニティ・スクールに係る文部科学省委託事業研究指定校の加配事務職員として、椿東小学校に赴任しました。それから、自分自身の学びのために様々な研修会に参加し、各地域で活動されているたくさんの方と触れ合う機会がありました。どなたとも輝いておられ、子どもに積極的に関わること、大人(学校・家庭・地域)も輝くことを実感しました。

そこで、学習支援等で地域の方にお願いする際、先生方も、地域の方も満足感ももてるように、互いのニーズをしっかりと把握すること一番気を遣っています。地域コーディネーター役として、「Win-win」の関係になれるかどうか、毎回ドキドキしています。今年度から、校務分掌やPTA組織等が大きく変わり、学校・家庭・地域が直接協働した取組について話す場面がみられるようになりました。その中で、いづれ劣らぬ子どもたちへの思いの深さ(大きさ)を感じています。

新しい取組が始まったばかりで、すぐにはうまくいきませんが、うまくいかなければ、また別の方法でやってみよう、やらなければ成功はなく、あきらめなければ、失敗もないと思っています。取組が1つでも2つでも現実となり、子どもたちがよりキラキラしてやることを考えようとワクワクしています。

学校・家庭・地域がよりよい形で響き合い、連携し、子どもたちの「生きる力」が育まれるよう、これからも、「縁」を大切に、「絆」にしていけるよう努めていきます。

(寄稿者)  
萩市立椿東小学校 事務主任 上領由紀子さん  
(コミュニティ・スクール推進加配)

2015.11.17

## 通信

19号

萩市CSコンタクト 池田廣司  
(萩市教育委員会 学校教育課内)  
TEL 0838-26-3558  
E-mail: cshagi@city.hagi.lg.jp

**「学び」でつながる**

**中学生までが元気を発信 ～**

新校舎で、明木小学校と一緒に旭中学校としてスタートします。

学校統合という大きな節目の中で、子どもたちが感じる「よさこい」や、明木地区の恩人である「彦六・又十郎伝説」が上演され、子どもたちの活躍が地区の活力となり、旭地域の絆づくりに大きく貢献しています。

また、昨年度に引き続き、明木中学校の有志7名(うち、佐々並地区3名)がお楽しみ相違会の運営を手伝い、おまきをしました。

中学生までが元気を発信 ～

明木小児童による「よさこい」の演技

劇「彦六・又十郎伝説」の様子

**校で初の「公開講座」**

を提供されました。また、小学校では初の公開講座が設定され、子どもも大人ともに学ぶ場となりました。

萩東中学校の体験活動部による人形劇「村のお月様パーティー」では、幼児から大人まで会場にはあふれんばかりの人が集まり、大好評でした。地域の大人や子ども同士、この公開講座を通じて結びつき、豊かな学びの場となりました。

公開講座2

「読み聞かせ」すずかけの会

公開講座3

「フワフワアレンジメント」

図5 「Hagi CS 通信」

1-4 「小中共通テーマ」と「小中共通の視点に立った学校評価項目」の決定

萩市における「小中独立・連携型」のモデル校区においては、平成27年度から、萩西中学校と明倫小学校に学校運営協議会が設置され、校区のすべての学校がコミュニティ・スクールとなった。また、「小中併設・一貫型」のモデル校においても、平成28年4月には全ての小中学校がコミュニティ・スクールとなる。こうした中で、それぞれのモデル校区では、地域ぐるみで子どもの学びや育ちを支援する仕組みである「地域協育ネットワーク」を構築し、保・幼、小中学校の「タテ」と学校を支援する関係団体等の「ヨコ」の連携を強化する取組が行われている。図6は、モデル校区の「小中共通のテーマ」と「小中共通の視点に立った学校評価項目」である。この策定に当たっては、それぞれの中学校区で開催される小中合同による学校運営協議会での「熟議」を通して行われ、「熟議」の中では、学校と保護者、地域住民等がイキイキと自分の考えを述べ、心を一にして小中共通の視点による方向性を決定する様子が確認された。「やまぐち型地域連携教育」のベースとなる協議が行われたことは、小中連携を大きく前進させる取組となったと言える。

小中独立・連携型	地域協育ネットワークの名称 小中共通テーマ	小中共通の視点に立った学校評価項目	
		地域協育ネットワークの名称 小中共通テーマ	小中共通の視点に立った学校評価項目
萩東中学校区	【夏柑(なつかん)ネット】 地域ぐるみのキャリア教育の推進 ～広げよう あこがれ育てよう 夢 高めよう 志(こころざし)～	○将来の夢や志をもっていますか。(中) あなたは夢の実現に向けて努力していますか。(小)	○あなたは、(家庭や地域で)時と場に応じた言葉づかいをしていますか。
萩西中学校区	【萩しらかべネット】 「きずなで育てよう地域の子ども」 ～ 志(夢)、豊かな心(思いやり)、 郷土愛(地域貢献)～	○あなたは、明るいあいさつができていますか。	○あなたは、正しい生活習慣(テレビやゲームの時間を決めるなど)を守っていますか。
明木中学校区	仮名称【旭グリーンネット】 夢を抱きながら健やかに育つふるさと 「あさひ」大好き子の育成	○あなたは、正しい生活習慣(テレビやゲームの時間を決めるなど)を守っていますか。	○相手を思いやる心が育っていますか。(小)
福栄中学校区	仮名称【ふくふくネット】 ふるさと福栄に思いを寄せ、未来を 切り拓く子どもの育成	○学習の取組姿勢 ○学習の理解度	○家庭学習にきちんと取り組んでいますか。

図6 小中共通テーマと小中共通の視点に立った学校評価項目

### 1-5 「小中共通の視点に立った学校評価」の実施と「小中連携カリキュラム」例

前述のとおり、萩東中学校区の小中合同による学校運営協議会では、地域協育ネットの名称を「夏柑（なつかん）ネット」と名付け、小中共通テーマを「地域ぐるみのキャリア教育 ～広げよう あこがれ 育てよう 夢高めよう 志（こころざし）～」とした。このテーマに沿って各学校が共通実践していくために、「小中共通の視点に立った学校評価項目」を7項目決定した。小中連携校では、各校独自の学校評価項目に、この共通実践項目を加え、1学期末と2学期末の2回学校評価を実施し、小中合同による学校運営協議会で取組の成果や課題を協議することとしている。

こうした実践を行う中で、9か年の育ち（学び）を発達段階に応じて、学校・家庭・地域が連携して指導・支援するための「小中連携カリキュラム」が必要であることが共通理解され、その作成に着手している。図8は、萩東中学校区の小中連携カリキュラムである。現在このカリキュラムは、作成途中であるが、網掛けの部分、協議済みの箇所を示している。こうしたカリキュラム作成作業を通じて、小中合同による学校運営協議会委員同士の連携が深まっていることは大きな成果と言える。

「小中共通の視点に立った学校評価項目」	
○将来の夢や志をもっていますか。（中）	あなたは夢の実現に向けて努力していますか。（小）
○あなたは、（家庭や地域で）時と場に応じた言葉づかいをしていますか。	○あなたは、家庭や地域であいさつができていますか。
○あなたは、予習・復習など家庭学習の習慣が身に付いていますか。（塾や習い事を含む）	○授業中正しい姿勢をしていますか。
○鉛筆を正しく持っていますか。（小）	○自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく伝えることができますか。

図7 小中共通の視点に立った学校評価項目（萩東中学校区）

事項	小学校1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校1年	2年	3年	将来	
段階	どうすればよいかを考える		よりよい行動ができるよう心を育てる		主体的にできるよう判断力を育てる			日常生活で実践力を育てる		自立した人となる。	
あいさつ	学校	あいさつの大切さを知り、元気よくあいさつができる。	自ら進んで気持ちのよいあいさつができる。		時と場を考え、心のこもったあいさつができる。			礼儀正しいあいさつができる。		社会人として大切なことを身に付け、様々な人とコミュニケーションを図る。	
	家庭地域	元気よくあいさつをするよう声をかけあう。	気持ちのよいあいさつをするよう声をかけあう。		時と場を考え、心のこもったあいさつをするよう声をかけあう。			礼儀正しいあいさつをするよう声をかけあう。			
正しい姿勢	学校	正しい姿勢で学習することができる。（くーべたぴんとん）	正しい姿勢を意識して学習することができる。（相手の方を向き）		正しい姿勢を長時間維持して学習等に取り組むことができる。					社会人として大切なことを身に付け、時と場に応じた姿勢をとる。	
	家庭	正しい姿勢で学習や食事ができるように声をかける。	正しい姿勢を意識して生活ができるように声をかける。		時と場を考え、正しい姿勢を意識して生活するよう声をかける。						
鉛筆（ペン）の持ち方	学校	正しい鉛筆の持ち方を知り、意識しながら書くことができる。	鉛筆を正しく持つことの根拠や原理を理解し、丁寧に書くことができる。				いつでもどこでも鉛筆等を正しく持ち、丁寧に美しい文字を書くことができる。				社会人として大切なことを身に付け、美しい文字を書き、正しい鉛筆の持ち方を他者へ伝える。
	家庭	鉛筆を正しく持っているか、確認する。	鉛筆を正しく持って、丁寧に書いているか確認する。				鉛筆等を正しく持ち、丁寧に美しい文字を書いているか確認する。				
自分の気持ちの伝え方	学校	自分の考えや気持ちを素直に話したり書いたりする。	自分の考えや気持ちを自分の言葉で相手にきちんと伝える。		自分の考えや気持ちを自分の言葉で、相手にわかりやすく伝える。（根拠や理由を明確にして）			相手や場面に配慮して自分の考えや気持ちを適切に伝える。		社会人として大切なことを身に付け、相手や場面に配慮して自分の考えや気持ちを伝える。	
	家庭	学校での出来事をたくさん話したり書いたりする。	自分の考えや気持ちを自分の言葉で家の人に伝える。		自分の考えや気持ちを自分の言葉で、家の人にわかりやすく伝える。（根拠や理由を明確にして）			家庭でも地域でも自分の考えや気持ちを適切に伝える。			
家庭学習	学校	授業と循環する家庭学習（家庭学習啓発パンフレット）20分以上の家庭学習よびかけ		授業と循環する家庭学習（家庭学習啓発パンフレット）40分以上の家庭学習よびかけ		授業と循環する家庭学習（家庭学習啓発パンフレット）60分以上の家庭学習よびかけ					社会人として大切なことを身に付け、生涯学習に取り組む。
	家庭	家庭学習の手引き1年生	家庭学習の手引き2年生	家庭学習の手引き3年生	家庭学習の手引き4年生	家庭学習の手引き5年生	家庭学習の手引き6年生				
将来の展望	学校	〈あこがれをいただく。〉友だちのよさに気付く。自分の得意なことを見つける。自分のことは自分で行おうとする。学習や生活の目標を立てる。		〈夢をもつ。〉友だちのよさを認め、励まし合う。自分の得意なことを伸ばそうとする。将来の夢や希望をもつ。自分に合った目標や計画を立てる。		〈志をいただく。〉自分と異なる考えや、人の優しさ・思いやりを理解する。自分の長所を伸ばし、短所を改善しようとする。将来の夢や希望をもち、実現をめざして努力する。より高い目標をもち、先を見通して計画的に行動する。			〈夢や志を意識して進路を決定する。〉相手の立場に立って考え行動する。自分の行動について自己判断・決定し、主体的に行動する。将来の夢や志をもち、実現をめざして努力する。より高い目標をもち、計画的に行動して、進路を決定する。		社会人として大切なことを身に付け、働く喜びや人の役に立つ喜びを感じる。
	家庭	自分のよさに気付く。身近な人にあこがれの気持ちをいただく。		自分の得意なことを伸ばそうとする。将来の夢や希望をもつ。		自分の長所を伸ばし、短所を改善しようとする。将来の夢や希望をもち、実現をめざして努力する。			自分の言動に責任をもち、主体的に行動する。将来の夢や志をもち、実現をめざして努力する。		
※この項目には「キャリア教育」のカリキュラムを入れることが提案されている。											

図8 小中連携カリキュラム（育ち・学び）における共通実践項目（萩東中学校区）

1-6 コミュニティ・スクールに関する意識調査の実施

「やまぐち型地域連携教育推進事業」の初年次で重要な取組は、図9に示す「コミュニティ・スクールに関する意識調査」の実施である。この調査は、同じ質問紙を用いて、県と市がそれぞれ実施した。

山口県教育委員会は県政世論調査として、平成27年6月に県下3,000名を層化二段無作為抽出して実施した。萩市教育委員会では、同様の調査用紙で、7月にモデル校区内の民生委員・児童委員、福祉委員、その他公民館や、学校を訪問した人を含めて167名からサンプルを得て実施した。

この意識調査の(2)に「あなたは、このコミュニティ・スクールをご存知ですか」という質問項目がある。コミュニティ・スクールの認知度に関する質問については、県政世論調査では、「知っている」と回答した割合は、17.6%、萩市の結果は37.1%であった。萩市の方が、「知っている」という認知度は高いが、いずれにしても、今後コミュニティ・スクールの認知度をもっと高めていく必要があると考える。

また、図10は、質問項目1~13におけるモデル校区における「コミュニティ・スクールに関する地域住民の意識差」を示すものである。このグラフの見方については、「そう思う」を4として以下、「そう思わない」を1として各項目の平均を出しているが、2.5が中央値であることから、それ以上は「意識が高い」、それ以下は「意識が低い」とみることができる。中央値は赤でラインを引いているが、このグラフを見ると、「⑧学校の活動等の情報を学校便りやHPで地域住民に伝えている」(数値3.8)、「⑬学校を良くすることは、地域を良くすることにつながる」(数値3.4)は高いものの、「⑪地域住民が、学校行事に積極的に参加している」(数値2.5)、「⑥学校の教職員は親しみやすい」(数値2.6)という項目は、

平均値を示すものの、他の項目と比べて低い。この調査は経年で実施することとしているが、今後、この意識調査を踏まえたコミュニティ・スクールの取組方策を検討する必要があるだろう。

コミュニティ・スクールに関する意識調査

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。  
○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし / : 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。  
この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したりしないように注意してください。

(1) あなたがお住まいの地域と地域にある学校(小学校、中学校いずれについてでも可)との関係について、あなたはどの程度そう思いますか。そう思う程度をお答えください。(各項目、1つずつマーク)

	適程度				
	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
1 学校では、地域人材を活用した授業を行っている(例:ポランティアによる授業補助等)	○	○	○	○	○
2 学校は、学校の活動や取組を学校だよりやホームページで地域住民に知らせている	○	○	○	○	○
3 学校は、地域の意見やニーズを反映する仕組みを持っている	○	○	○	○	○
4 学校の教職員は親しみやすい	○	○	○	○	○
5 学校には、地域住民と一緒に活動する機会がある	○	○	○	○	○
6 学校は、地域行事に協力している	○	○	○	○	○
7 学校は、特に力を入れることを決めて、子どもの教育を行っている。	○	○	○	○	○
8 地域住民が、学校の環境整備に関わっている	○	○	○	○	○
9 地域住民は、登下校の児童生徒を見守る活動に積極的に関わっている	○	○	○	○	○
10 地域住民が、学校行事に積極的に参加している	○	○	○	○	○
11 地域が学校に関わると、学校の教育が充実する	○	○	○	○	○
12 地域住民が、様々な形で学校に関わることにより、地域の活性化が図られている	○	○	○	○	○
13 学校を良くすることは、地域を良くすることにつながる	○	○	○	○	○

(2) 山口県では、コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりを推進しています。あなたは、この「コミュニティ・スクール」をご存知ですか。以下の項目から、あなたの考えに合うものを1つ選んでください。(1つにマーク)  
○ 知っている ○ 知らない

(3) あなたは小・中学校の保護者ですか(この質問は、個人を特定するものではなく、これまでの質問との関連を調べるために向うものです。)  
○ 小学校の保護者である ○ 中学校の保護者である ○ 小、中学校両方の保護者である ○ 保護者ではない

図9 コミュニティ・スクールに関する意識調査質問紙

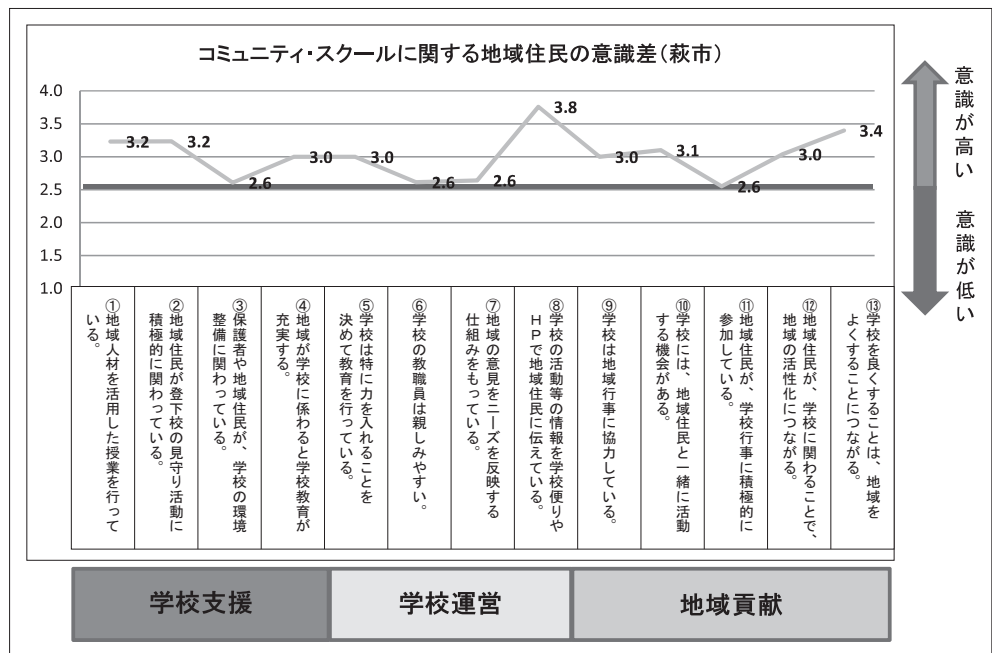


図10 コミュニティ・スクールに関する地域住民の意識差(萩市)

この調査は経年で実施することとしているが、今後、この意識調査を踏まえたコミュニティ・スクールの取組方策を検討する必要があるだろう。



## 2. コミュニティ・スクールの可能性を追究する取組事例

### 2-1 コミュニティ・スクール推進の核となる日常的・定期的な学校支援活動

コミュニティ・スクールの可能性を追究するためには、保護者や地域住民の学校への支援・協力が不可欠である。萩市では、コミュニティ・スクールに指定した学校が、指定される以前から学校に惜しみない支援を受けている団体や個人の存在は非常に大きい。

図11は、椿東小学校の日常的・定期的な学校支援活動の一覧表である。「日常的」とは、少なくとも毎週1回以上学校に来て活動を行うものである。また、「定期的」とは、支援団体の活動計画に基づき、定期的に活動を行うものとした。

図中の「すずかけの会」は、平成9年に発足し、「授業としての読み聞かせ」「影絵」等を定期的に行う団体である。毎週火曜日に行われている「朝の読み聞かせボランティア」とは、活動の内容が異なっている。萩市のほとんどの小学校において、この日常的な「読み聞かせ」活動が根づいており、学校支援活動の中核を担っていると評価できる。椿東小学校では、この他の日常的な支援活動として、「図書の修理」「登下校の見守り」、そして特別支援学級での「リトミック学習」など、学校が必要としている学校支援活動が活発に行われている。さらに、定期的な活動や学校の随時の要請に応じた支援活動を含めると、子どもたちの教育活動を地域の団体や個人が手厚く支えていると言えよう。

今ひとつ、図12の中央の写真は、萩市立萩東中学校の「てごの会」の花生け活動である。この活動は、毎週火曜日に行われているが、平成19年度から行われている。「荒れた学校」という不本意な評価を受けていた時代に、当時の校長が学校の「ありのままの姿を見てほしい」、PTA会長が「とりあえず学校を覗いてみよう」という動きの中で始まったものである。花生けの方々は、単に花を生けて

No.	名称 (代表)	日常的な支援活動内容	定期的な支援活動内容	学校の要請に応じた 随時の支援活動	発足年度	備考 (会員数)
1	すずかけの会 (代表)		・授業としての読み聞かせ、影絵、ストーリーテリング等を毎回3名程度で行う。(毎学期学年約1回年21回)	・七輪体験学習支援 ・調理実習学習支援	H9～	「すずかけ」とは、校舎前の大きな鈴掛の木からきている。(会員数 15名)
2	朝の読み聞かせボランティア	・本の読み聞かせ(火)			H20～	(会員数 3名)
3	図書修理ボランティア	・図書の修理(月)			H22～	(会員数 8名)
4	裏山の会 (代表)		・小申しつけ交流会のための裏山でのしいけ原木等全般のお世話		H24～	(会員数 7名)
5	椿東地域見守り隊 (隊長)	・登下校時の見守り		・校外活動引率支援 ・むかしあそび支援	H26～	(会員数 35名)
6	椿東地区民生委員 (会長)			・七輪体験学習支援 ・ミンソ学習支援 ・調理実習学習支援	H26～	(委員数 19名)
7	椿東老人クラブ (会長)			・むかしあそび支援	H27～	
8	クラブ活動ボランティア		・手芸クラブ、屋内スポーツクラブ、フィールドスポーツクラブでの活動支援 ・萩ものしりクラブでの現地ガイド等(年間クラブ活動時)		H27～	(5名)
9	リトミック学習ボランティア	・たんぼぼ1組での指導(毎週1回)			H27～	(1名)

図11 日常的・定期的な学校支援の具体的な活動(椿東小学校)

飾だけでなく、花を生けながら、学校内での子ども様子にも気を配っているのである。いずれにしても、こうした学校を支援する活動が必要感を伴って発足して現在も行われている事実は、コミュニティ・スクールの動きを支え、拍車をかけている。また、学力の二極化が懸念され、生徒の学び直しの機会を与えようとして始まった萩東中学校の「土曜塾」(図12写真右)においては、高校生ボランティアが力を発揮している。このように、支援団体相互のつながりが増して、支援の輪が広がっていることは大きな成果である。

**成果1. 日常的・定期的に来校して、学校を支援する個人や団体がCSの動きを支え、拍車をかける**





本の読み聞かせ活動  
萩市内18校で実施

花生け活動

土曜塾

○日常的な支援活動：本の読み聞かせ、花生け、土曜塾講師、図書ボランティア、クラブ活動支援など  
 ○学校支援団体：たんぼぼの会、てごの会、椿東教育後援会、三矢(さんし)会、萩西中沢瀉会 等

→ **支援団体相互のつながり・輪が広がる。**

図12 日常的・定期的な学校支援活動

## 2-2 学校運営協議会委員の学校運営への参画意識を高める取組 ～「熟議」の浸透～

コミュニティ・スクールが機能するためには、学校運営協議会委員の「学校運営」への参画意識を高めることが重要となる。

学校運営への参画とは、学校運営に関して単に意見を申し述べるだけでなく、もう一步進んで、知恵の部分に関して教職員とともに汗をかき、ともに知恵を出し合うことである。

図13は、萩西中学校区の小中合同による学校運営協議会で、小中共通のテーマを決めるために「熟議」を行っている場面である。「熟議」は、KJ法を用いて、ブレインストーミングなどによって得られた発想を整理し、問題解決に結びつけていくために「熟慮」と「議論」を重ねることである。他人の意見を批判せず、思いついたことを自由に自分の意見として述べることで、皆で解決の方向性を見出そうとするものである。この熟議の手法は、萩市でも多くの学校が取り入れており、確実に「浸透」してきていると感じている。浸透してきた背景には、山口県教育委員会の主催する、「熟議の場づくり応援出前講座」などの成果が大きいと考える。

こうした「熟議」を取り組む学校運営協議会委員のイキイキとした表情や姿は、学校運営に参画している証と言える。「熟議」はそれほどの魅力をもっている協議手法なのである。今後、この「熟議」の手法を、必要と目的に応じて学校運営協議会に取り入れていくことが大切であると考えられる。



図13 小中合同による学校運営協議会の「熟議」

## 2-3 学校運営協議会委員による授業への参画 ～「ユニット型研修」～（授業を開く）

今ひとつ、学校運営協議会委員の学校運営に関する参画意識を高める取組として、「ユニット型研修」への参加がある。「ユニット型研修」とは、平成26年度に、萩市立萩東中学校で実践された「人材育成ユニッ

ユニット型研修(椿東小)							
コミュニティ・スクールのしくみを生かした若手人材育成のためのユニット型研修組織編制							
ユニット	メンター (相談役)	サポート (チーム リーダー) 企画・調整役 ☆責任者	1～4 年目 教員	臨時的任用 教員 (非常勤)	養護教諭 栄養教諭 事務職員	学校運 営協 議会 委員	アドバイザー 関係機 関 等
	ベテラン教員	中堅教員	若手教員				
低学年	(1年学年主任) (初任研担当)	☆(2年学年主任) (1年)	(2年目) (初任)	(学習補助)	(養護教諭)	A B C D	
中学年	(教務主任) (3年学年主任)	☆(4年学年主任) (4年・研修主任) (4年)	(初任)	(学力向上支援員) (初任研後補充)	(栄養教諭)	E F G H	(校長) (教頭) (教頭・学力向 上推進リーダー)
高学年	(生徒指導) (5年学年主任)	☆(6年学年主任) (5年) (教育相談) (少人数指導)	(4年目) (2年目)	(学力向上支援員)	(コミスク担当)	I J K L	萩市教育委員会 山口県教育委員 会(授業づくり 拠点校担当)
特別支援	(通級指導教室) (たんぼぼ2)	☆(たんぼぼ1) (たんぼぼ2)		(学習補助)	(主査)	M N O	

図14 ユニット型研修体制

📖📖📖📖📖📖📖📖

本日は、お忙しい中、ユニット型研修へご参加いただき、ありがとうございます。  
授業をご覧になられての感想をお願いいたします。小さなお気づきでも、ありがたいで  
すので、お聞かせください。

期日 11月4日(木) 授業者 2年1組担任 教科 算数  
◎授業者への気づき

・とても聞き取りやすい声、話し方  
・学芸員と教員の間、一体感が感じられる  
・発表時ルールが決められている  
・この内容と2年生と教員との関係が思いつく  
・相対評価ではなく、互いに高め合える関係が  
・子どもたちの気づき、学びがわかる  
・先生が長く現場にいらして、先生は  
・先生が、発表、出来てます。

◎その他の気づき(教室環境他)

・文章で読み取り等、内容が難しいと、何回も  
・教員の名前も、先生の名前、問題の中心、行の番号、目  
・よく分かります。

午後(16:10～16:40)の授業後、三研修会にご出席されない場合は、教頭(矢野・渡辺)に、この紙をお渡しください。ご参観・お気づきありがとうございます。

差し支えなければ、お名前をご記入ください。  
( )

📖📖📖📖📖📖📖📖

図15 授業参観後の気づき

ト研修」の手法によるものである。これは、山口県では大量退職・大量採用時代を迎えており、若手の人材育成、とりわけ授業力の向上をめざす必要があることから、教職員と学校運営協議会委員が少人数の組織「ユニット」を編成し、1か月に1回程度の授業研究を行うなど、OJTによる校内研修の一つの手法である。図14は椿東小学校の「ユニット型研修組織」であるが、低・中・高学年と特別支援の4つのユニットを編成し、それぞれのユニットに学校運営協議会委員が所属している。学校運営協議会委員は、授業参観の依頼を受けたら、その時間に合わせて来校し、授業参観を行う。そして、授業参観をしての率直な気づき(図



15) を書いて授業者に渡している。委員からは、先生の真摯な授業に対するねぎらいや、地域目線からの気づきなどを記入している。教員にとっては、教師仲間とは違った視点での意見を聞くことで、授業改善への大きなヒントになるのである。また、この「ユニット型研修」への参加により、学校運営協議会委員の学校運営への参画意識がより一層高まっている。

### 3. コミュニティ・スクールを円滑に推進するための校務分掌組織（組織を開く）

コミュニティ・スクールの取組を円滑に推進していくためには、学校と地域とをつなぐための校務分掌組織が必要であると考え。やまぐち型地域連携教育推進事業では、モデル校にどのような組織図であれば、学校と地域の連携ができるかを学校の実状に沿ってともに考えた。図16は、椿東小学校で作成した全体組織図である。椿東小学校は、平成27年度は、文部科学省の委託事業による「マネジメントの強化をめざす新しい連携・協働体制の構築」をめざし、学校運営協議会、P T Aに加え、首長部局との連携体制づくりに取り組んだ。学校課題に基づく、4つのプロジェクト部に、教職員と学校運営協議会、P T A、そして首長部局がつながる組織としている。このような組織を作ることが、「組織を開く」ことにつながり、そのことで情報を共有し、学校教育に対する様々な意見が反映され、連携・協働体制がさらに高まっていくものとする。

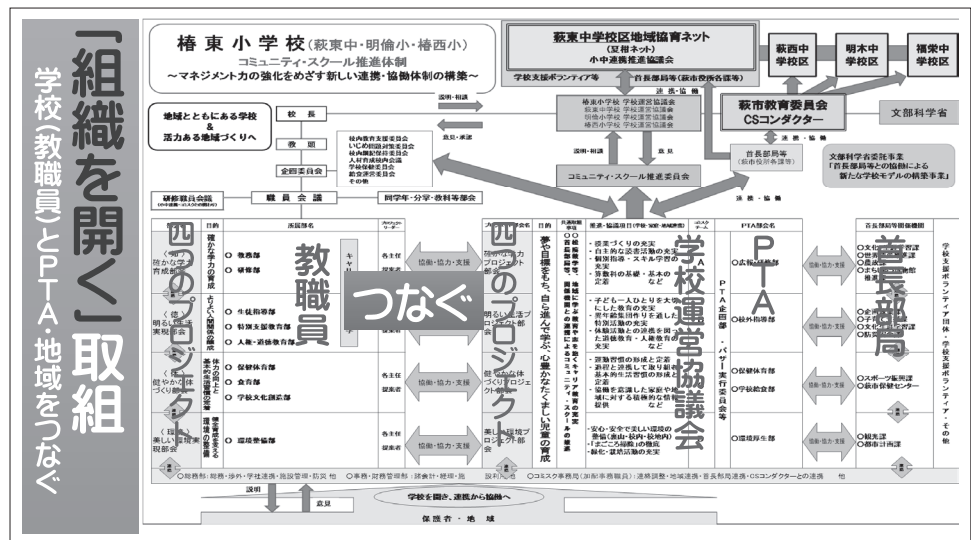


図16 学校とP T A・地域とをつなぐ校務分掌組織（椿東小学校）

図16は、椿東小学校で作成した全体組織図である。椿東小学校は、平成27年度は、文部科学省の委託事業による「マネジメントの強化をめざす新しい連携・協働体制の構築」をめざし、学校運営協議会、P T Aに加え、首長部局との連携体制づくりに取り組んだ。学校課題に基づく、4つのプロジェクト部に、教職員と学校運営協議会、P T A、そして首長部局がつながる組織としている。このような組織を作ることが、「組織を開く」ことにつながり、そのことで情報を共有し、学校教育に対する様々な意見が反映され、連携・協働体制がさらに高まっていくものとする。

### 4. 萩市モデル校区の今後のコミュニティ・スクール構想

#### 4-1 「小中独立・連携型」モデル校におけるコミュニティ・スクール構想

図17は、萩東中学校区及び萩西中学校区における「小中独立・連携型」のコミュニティ・スクール構想図である。この校区の小中学校においては、図中左側に示しているように、各校の学校課題を明確にして、それを解決するために、プロジェクト型の校務分掌組織をつくり、学校運営協議会としっかりつながりながら取り組んでいくことが基本となる。そのうえで、校区の小中合同による学校運営協議会で決定された「共通のテーマ」に沿って共通実践を図ることで、小中連携をさらに深めていこうとするものである。その際に、「地域協育ネット」の支援をいただきながら教育活動を充実させようとする

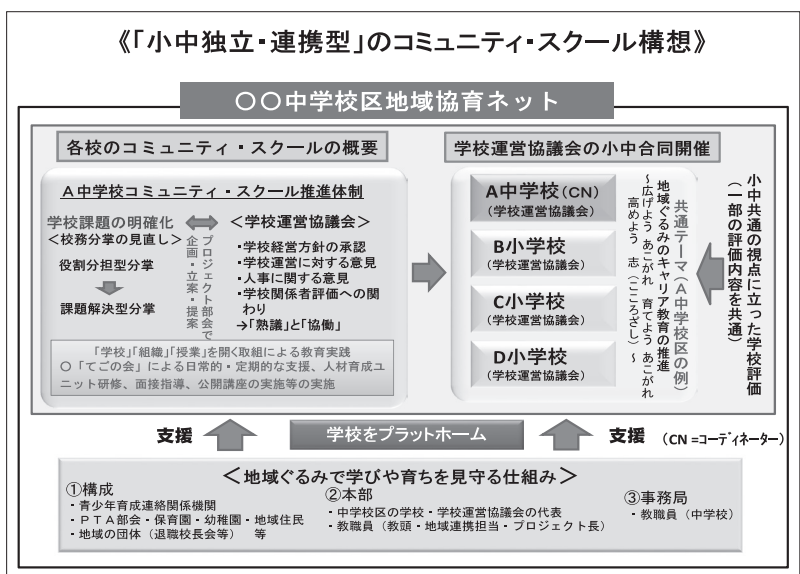


図17 萩東中・萩西中学校区のコミュニティ・スクール構想

ものである。そのためには、地域と学校とをつなぐプラットフォームを学校とし、そこに統括コーディネーターを配置してその充実を図ることが期待される。旧萩市内には、全地域をカバーする中央公民館はあるが、それぞれの中学校区にはないことら、各学校にもコーディネーターを配置することが最も理想的であろう。

#### 4-2 「小中併設・一貫型」モデル校におけるコミュニティ・スクール構想

図18は、旭中学校区のコミュニティ・スクール構想図である。現在、明木小学校、佐々並小学校には学校運営協議会が設置されている。明木中学校は、平成28年4月に設置予定である。先に述べたように、明木中学校は、平成28年4月から校名変更し、「旭中学校」となることが決定している。また、明木小学校の校舍改築とともに、小学校に併設されることとなっている。さらに、新校舎と同一敷地内に萩市立明木図書館が新築移設される。一方、佐々並小は現状のままである。従って、変則的になるが、「小中併設（1校分離）・一貫型」をめざしている。なお、平成27年度に、佐々並小学校と明木小学校は、文部科学省の「人口減少社会におけるICT活用による教育の質の維持向上に係る実証事業」の採択が決定し、タブレット端末とテレビ会議システムによって授業交流が行われている。1校分離の不便さを解消する取組として注目される。こうした立地状況の中、図書館機能とICT機能を生かし、言語活動の充実を小中一貫して図ろうとするコンセプトが提案されている。

このため、小中合同による学校運営協議会を「旭地域学校運営協議会」として、委員を同一メンバーで構成することが提案され、教育水準の平準化と合わせて、明木地区、佐々並地区の公民館をプラットフォームとしてコミュニティ・スクールと「地域協育ネット」の一体的な推進を図っていく構想である。

図19は福栄中学校区のコミュニティ・スクール構想図である。この校区においては、福川小学校と紫福小学校の二つの小学校が統合し、福栄中学校に隣接して、平成28年4月に「福栄小学校」として開校する。こうした経緯から、現在の3つの小中学校には、学校運営協議会が設置されていなかった。統合を機に、学校運営協議会を設置して、コミュニティ・スクールを基盤とした「小中一貫型 福栄小学校・中学校」の設置をめざしている。

この福栄地域は、ふるさと学習や武道教育に熱心に取り組んできた地域であるが、それらを基盤にして、新たに「外国語教育」を教育内容に加えて、学校教育目標を一つにした「小中一貫型小中学校」の教育をコンセプトとしている。また、地域に2か所ある福川公民館と紫福公民館をプラットフォームとしてコミュニティ・スクールと地域協育ネットの一体的な推進をめざしている。

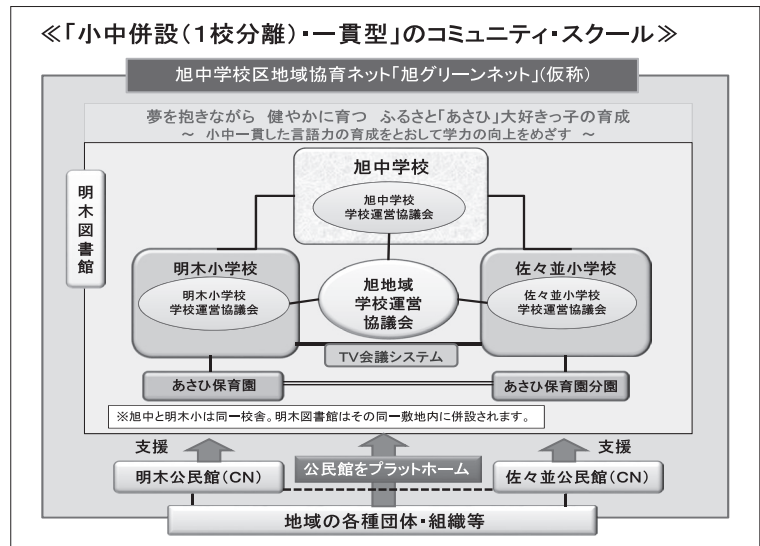


図18 旭中学校区のコミュニティ・スクール構想

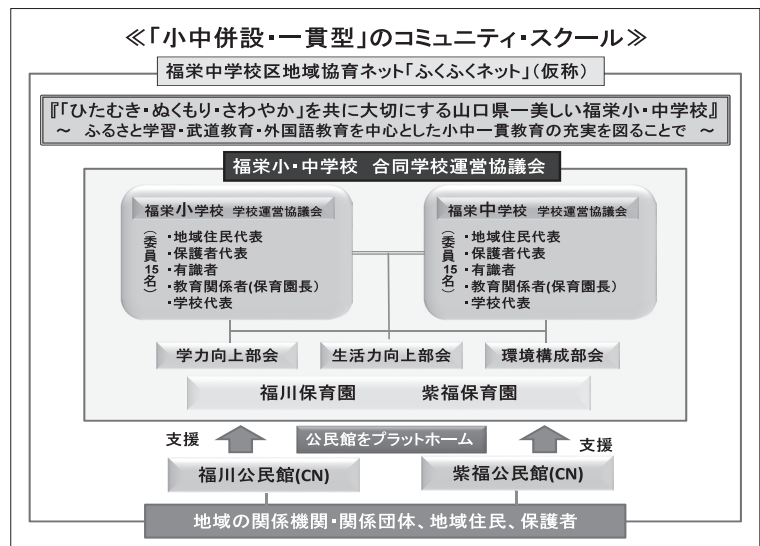


図19 福栄中学校区のコミュニティ・スクール構想

## おわりに

これまで、「やまぐち型地域連携協育推進事業」を通して、萩市のコミュニティ・スクールの現状や成果、並びに今後の構想について述べてきた。4つのモデル校区では、コミュニティ・スクールに関して、学校や地域の状況はすべて異なるが、「コミュニティ・スクール」と「地域協育ネット」の一体的な推進を図っていく基礎的な体制整備ができた。

平成28年度から萩市のすべての小中学校がコミュニティ・スクールとなる。また、平成28年度末には、山口県の公立小中学校のすべてがコミュニティ・スクールとなる。これは全国一であり大きな成果である。

今後は、このコミュニティ・スクールという制度で何を指すのかを今一度しっかりと見据えて取り組むことが大切である。つまり、コミュニティ・スクールを学校の課題を解決するためのツールとしてどのように使いこなしていくのか、学校経営の最高責任者である校長の組織マネジメントが重要となる。

今年度の本事業の推進を通じて、今後の課題や方向性を整理してみる。

一つは、それぞれの学校に設置されている「学校運営協議会が成長・成熟していくこと」が大切である。

それぞれの学校運営協議会では、学校の課題や育てたい子ども像を共有し、よりよい方向を見出していく協議会にしていかなければならない。大切なことは、学校サイドにとっては、「学校」「組織」そして、「授業」を一体的に開いていくことが大切である。学校運営協議会がうまく機能している学校は、学校の情報をわかりやすく示しながら、保護者や地域住民からよりよい情報や知恵を取り入れている。このような学校運営協議会は委員自身も成長することでき、学校運営協議会自体も成長・成熟するものとする。

二つ目は、住民意識調査結果からも、地域住民にコミュニティ・スクールの認知度を高める取組が必要である。そのためには、地域の学校として、地域住民がたくさん学校に足を運ぶことができるような学校をめざすことが大切である。

例えば、現在、萩市の小中学校では、平成25年度から萩東中学校で実施されている「公開講座」を、それぞれの学校に合わせて開催するなど、その広がりを見せている。ある学校の「公開講座」では、地域住民や教員が講師となり、地域住民が学校に集い学ぶ姿が多く見られた。また、子どもも大人もイキイキと学ぶ姿から、まさに「大人の学びは、子どものビタミン」と感じるような場面も多く見かけた。大人の学び続ける姿を子どもたちが見ることで、生涯にわたって学び続けるような大人になるために必要な栄養素を吸収していると感じた。学校は、そのような学び場でありたいと願うのである。

三つ目は、こうした取組を行うに当たっては、地域住民をまとめる「町内会長」への周知理解や、市町の首長部局との連携も必要となってくる。教育委員会は、他の部局との連携や町内会連合会などでコミュニティ・スクールを周知することが大切である。また、学校は、地区ごとの町内会の出向き、学校の取組の理解と協力を呼びかけることが必要であろう。いずれにしても、コミュニティ・スクールという制度と地域協育ネットという仕組みが地域に理解され、地域に馴染んでいくための取組が今後の課題である。

おわりに、今年度取り組んできた「やまぐち型地域連携教育推進事業」で得られた成果や課題を、次年度のモデル校へつなげていき、「子どもも大人もイキイキと！ 『いい学校』は『いい地域』にできる」を推進の理念として、それぞれの地域の特色を生かしながら学校が主体性・自律性を発揮し、コミュニティ・スクールの可能性を追究する取組を期待したい。

## 引用・参考文献

山口県：「元気創出やまぐち！ 未来開拓チャレンジプラン」, 2015.

山口県教育委員会：「やまぐちコミュニティ・スクール 学校支援・学校運営・地域貢献」, 2015.

コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議：「コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりの一層の推進に向けて」, 2015.

中央教育審議会：「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」, 2015.

萩市教育委員会：「平成27年度 やまぐち型地域連携教育の推進 萩市の取組について」, 2015.

萩市立椿東小学校：「学校運営協議会資料」, 2015.

萩市立萩東中学校：「萩東中学校区小中合同による学校運営協議会資料」, 2015.